

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月17日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653075

研究課題名（和文） 特別支援教育における発達障害児の対人関係構築に及ぼす「笑いの力」の心理的解明

研究課題名（英文） Humor in children with developmental disorders on social interaction

研究代表者

田中 真理 (TANAKA MARI)

東北大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：70274412

研究成果の概要（和文）：

発達障害児と周囲のひととの対人関係を構築するために、「笑い」や「ユーモア」が果たす役割について実証的検討を行うことを目的し、発達障害児が「ユーモア」を感じ「笑い」を表出する刺激には定型発達児とは異なる特性が存在すること、また、「笑い」や「ユーモア」が生成される場面設定を、心理教育臨床場面に積極的に取り入れることによって、対人コミュニケーション能力や関係性構築に変容がみられたことを示唆した。

研究成果の概要（英文）：

This study examined humor in children with developmental disorder. The cognitive and affective processes of humor episodes were analyzed on clinical psychological therapy and special needs education. The present research showed that they have a different sense of humor from typical children and sharing their humor with other people had good effect on social or emotional reciprocity.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	0	1,500,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	360,000	3,060,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：発達障害、特別支援教育、対人関係、笑い、ユーモア

1. 研究開始当初の背景

場における笑いやユーモアは、仲間意識を高めたり場の緊張を緩和するなどの効果があり、対人的相互反応における質的障害が指摘されている。ユーモアは刺激をきっかけに生起する愉悦 (mirth) や愉快さ (exhilaration) と定義され (Nomura & Maruno, 2011)、ユーモアには、精神的ストレスの緩

和 (葉山・櫻井, 2005; 塚脇・深田・樋口, 2011) や、ナチュラルキラー細胞の活性化 (西田・大西, 2001) などの個人の心身の健康状態を保つ効果だけではなく、Fralely & Aron (2004) が、対人関係において大きな役割を果たすことを指摘し、ユーモアを他者と共有することが、2者間の親密度を高めることを明らかにしているように、他者と共有する

ることが十分ではなかった。今後は、提示する刺激に含まれる視覚的要素と聴覚的要素を分離することによって ASD 者におけるユーモア体験の特異性についてさらに詳細に検討する必要がある。

- (4) ロールプレイングの開始前に事例 A は社会的な場面に不安を感じていたものの、スタッフに指示されたユーモア表出を行い、ユーモア共有を行ったことをきっかけに自発的なユーモア表出を行い、社会場面における不安が軽減したというプロセスが示唆された。グループスタッフの指示的なかかわりについて、本事例では実際に場面を行うのに先立って、スタッフの方から、ユーモア表出を行うことと、「表出の内容」について、指示的に伝えている。A は特に他者との関係においてどのように振る舞えばいいのか分からないという主訴を持っていたため、こうした具体的な振る舞い方を伝え教えるという指示的なかかわりは、A が他者との関係の中でユーモア表出を行うことの支えになったと考えられる。こうした ASD 者に対する指示的なかかわりは、ASD 児・者を対象とするソーシャルスキルトレーニング(以下、SST)でも用いられており (Barry, Klinger, Lee, Paraldy, Gilmore & Bodin, 2003)、一定の効果を上げることが示されている。今回のユーモア表出とユーモア共有を促す取り組みにおいても、どのようなユーモア表出を行うのかを伝える、指示的にかかわりが A の非自発的なユーモア表出を促したことが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ①永瀬開・田中真理、ある自閉症スペクトラム障害者における他者とのユーモア共有ー心理劇的ロールプレイングにおけるユーモア表出を促す指示的・受容的にかわりー、東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報、査読無、2013、13、51-60、
URL:http://www.sed.tohoku.ac.jp/~edunet/annual_report/2013/13-05_nagase.pdf
- ②永瀬開・田中真理、ある自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア表出の特徴ーユーモア表出時の他者理解の様子からー、東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報、査読無、2012、12、79-88、
URL:<http://www.sed.tohoku.ac.jp/~edunet/a>

[nnual_report/2012/12-08_nagase.pdf](http://www.sed.tohoku.ac.jp/~edunet/annual_report/2012/12-08_nagase.pdf)

- ③松崎泰・田中真理、心理劇的ロールプレイングを通してみられたある青年期自閉症スペクトラム障害者の共感性、東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報、査読無、2012、12、89-96、URL:
http://www.sed.tohoku.ac.jp/~edunet/annual_report/2012/12-09_matsuzaki.pdf

〔学会発表〕(計 7 件)

- ①永瀬開・田中真理、自閉症スペクトラム障害者におけるユーモア特性の解明ー構造的な不適合の評価に焦点を当ててー、日本特殊教育学会第 50 回大会、2012 年 9 月 28 日、筑波
- ②李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・小口万梨子・松崎泰・栗田裕生、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか (8)ー言語的やりとりを中心としたユーモア課題における視線分析からー、日本特殊教育学会第 49 回大会、2011 年 9 月 24 日、弘前
- ③松崎泰・佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・栗田裕生・小口万梨子・田中真理、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか (9)ー言語的やりとりを中心としたユーモア課題における笑いの情動表出からー、日本特殊教育学会第 49 回大会、2011 年 9 月 24 日、弘前
- ④佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・栗田裕生・小口万梨子・松崎泰、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか (10)ー言語的やりとりを中心としたユーモア課題における評価的側面からー、2011 年 9 月 24 日、日本特殊教育学会第 49 回大会、弘前
- ⑤横田晋務・滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・小口万梨子・松崎泰・栗田裕生、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか (11)ー視覚的補助要素を含んだユーモア課題における視線分析からー日本特殊教育学会第 49 回大会、2011 年 9 月 24 日、弘前
- ⑥滝吉美知香・永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・松崎泰・栗田裕生・小口万梨子、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか (12)ー視覚的補助要素を含んだユーモア課題における笑いの情動表出からー、日本特殊教育学会第 49 回大会、2011 年 9 月 24 日、弘前
- ⑦永瀬開・李熙馥・田中真理・佐藤健太郎・横田晋務・滝吉美知香・栗田裕生・小口

万梨子・松崎泰、自閉性スペクトラム障害者は笑いやユーモア状況をいかに楽しむか（13）－視覚的補助要素を含んだユーモア刺激における評価的側面から－、日本特殊教育学会第49回大会、2011年9月24日、弘前

〔図書〕（計1件）

- ①R. A. マーティン著、野村亮太・雨宮俊彦・丸野俊一監訳、田中真理翻訳、北大路書房、「第8章ユーモアの発達心理」、『ユーモア心理学ハンドブック』、2011、279-326ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 真理 (TANAKA MARI)
東北大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：70274412

(2) 研究分担者

鈴木 大輔 (SUZUKI DAISUKE)
東北大学・大学院情報科学研究科・教育研究支援者
研究者番号：70455814

(3) 連携研究者

()

研究者番号：